

教育研究部

部長：大塚 仁史

副部長：藤谷 丈雄

(1) 今年度の目標

- ① 教科・TPや学校行事でより教育効果が得られるように、図書館利用の促進を図る。
- ② 情報・視聴覚機器を充実させる。
- ③ 学校評価活動の改善について、実施内容や方法、学校評価書を本年度の実態に合わせ、教員の業務改善により効果が見られるよう工夫する。
- ④ 学校活動の外部公開の一部として、小学生・中学生およびその関係者向けの活動を行い、本校の教育活動について知りたい情報を提供する。
- ⑤ 大学入学希望者学力評価テストの実施を見据え、生徒の検定による資格取得や各教科の科学オリンピック等への参加を促す方法を検討する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 図書館利用を促進するため、以下の取り組みを行う。
 - ア 『図書館だより』を発行すると共に、館内のレイアウトを工夫する。
 - イ 読書週間を活用し、読書推進を図る。
 - ウ 蔵書システムの入力を進める。
- ② 教員の要望を聞き、情報・視聴覚機器その他の購入物品の調整を行う。
- ③ ア 学校評価のための基礎資料収集を次のとおり行う。
 - a 公開授業（4月、11月）のアンケート集計と分析を適切に行う。
 - b 生徒による授業評価、教員による自己評価を含め項目などを精選して行い、学校評価活動の取りまとめを適切に行う。イ オープンスクール（8月）の企画・運営を適切に行うとともに、昨年度みられた問題点の改善を試みる。
- ④ ホームページの充実と適時的な更新を行う。また、学校案内の編集と発送を行う。
- ⑤ 生徒の検定による資格取得や、各教科の科学オリンピック等への参加を促すため、生徒一人一人への周知を行う。

(3) 成果

- ①の図書館利用推進については生徒アンケートの74.3%が「(本校の図書館活動は)読書をうながす助けとなった」と回答しており、読書推進に一定以上の効果があったと思われる。蔵書システムの入力は開架図書について今年度中に入力終了予定である。
- ②の情報・視聴覚機器についても、生徒アンケートの90.0%が「(本校の授業等で用いられた)視聴覚機器は理解を深める為に役だった」と回答しており、有用と思われる。
- ③の学校評価活動の改善については、今年度学校評価アンケートのやり方を一新し、各分掌の「今年度の目標」に対応したアンケート項目となるよう工夫した。また、授業評価アンケートや公開授業については教員の94.7%が「丸亀高校では授業評価アン

ケートや公開授業等を適切に実施し授業改善を図られている」と答えており、有用であったと思われる。また、94.1%が「生徒からの授業評価でのマークシート集計は、作業の軽減化に役立っている」と答えている。オープンスクールについても教員の87.5%が「効果的に実施されている」と答えている。オープンスクールに参加した中学生・保護者・中学校教員からの評価(自由記述)も「学校についてくわしく知れてよかった」「懇談会はとても内容の濃いものでした」「懇談会で生徒の声がとても励みになったみたいです」など、上々であった。公開授業でも来校者から「前向きに取り組んでいる姿を見て安心しました」「子供の話を聞く際にもイメージしやすくなりました」などの好意的な評価(自由記述)をいただいている。

④ホームページの更新は平成27年4月から12月末日現在60回を数える。学校案内も今年度改訂し、中学校での説明会での配布・周知するとともに、公開行事等で配布された。

⑤生徒の検定による資格取得では、英語科の全面協力のおかげもあって本年度から英検受験希望者への特別指導を開始した。また、理科・数学科のご指導のおかげをもって、地学・生物・数学オリンピック香川県大会及び科学の甲子園に出場した。科学の甲子園では初出場・初優勝し、3月の筑波での全国大会に出場権を獲得した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

オープンスクールにおいて、東館付近が工事中だった為、校内巡回ルートが交錯し、やや時間がかかった班があったと、教員アンケートから指摘が上がった。平成28年度は第一体育館が工事中となるため、工事の状況を確認した後、校内巡回ルートの再検討が必要となる可能性がある。

授業評価については、生徒の32.8%が「生徒からの授業評価が授業改善にあまり活かされていない・活かされていない」と答えている(「活かされている」は60.6%、「判断できない」が6.6%)。「活かされていない」と感じた生徒からのコメントには「(何度かお願いしたが)理科や社会科を2年で終わらせてほしい」「(必修科目でも)入試にいらぬ科目はテストをしないで」「生徒全員の希望を教室での授業で活かすのは、無理。ある程度はこっちがあわすもの。この項目は聞かなくていいと思う。」などのコメントがあった。また「判断できない」と感じた生徒からは、「はやく進めてほしい人もゆっくり考える方が好みの人もある。(試験)範囲がせまい方がいい人もはやく教科書を終わらせてほしい人もいる。人も教科もいろいろ。(だから評価できない)」「高校は『高校生』としての勉強が基本。『単位』のでる、『卒業見込』がでる(公立高校のルールに従った)授業を。その上で入試対策は積み上げるもの(だから授業評価は不要では)」という声があった。生徒の希望が多様化しており、すべてには対応しかねていることが、否定的な回答が30%を越える理由の一つと思われる。

今年度から活性化した各種科学オリンピックの状況や、英検・留学等の状況等を、今後一括して記録し今後活かす部署が必要である。来年度検討を要する。

平成28年度、本校はSGH(スーパーグローバルハイスクール)に立候補し、実施する予定がある。学校評価においても、SGHに対応した形式に改訂する必要がある。改訂内容については、今後SGH担当部署等とすりあわせや検討が必要である。